

近代化遺産と地域風景資産の活動

駒沢給水塔風景資産保存会 代表 澤 一郎

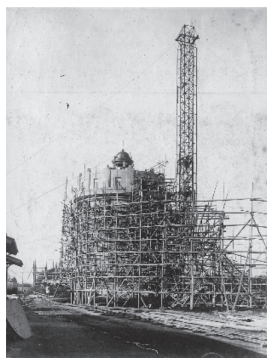


1. 駒沢給水塔風景資産保存会の紹介

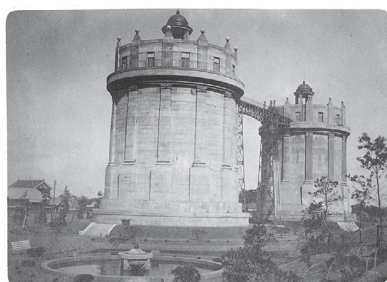


現在の全景

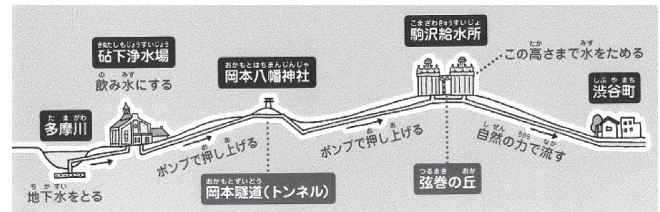
東京都世田谷区弦巻（建設当時：東京府荏原郡駒沢町字弦巻）の住宅街の真ん中にトラス橋で連結された一見変わった二つの円筒状の建造物が建っています。大正6年（1917年）、大正初期の東京府豊多摩郡渋谷町（現在渋谷区）の人口急増による飲料水を確保するため、中島鋭治工学博士を中心として北多摩郡砧村（現在世田谷区鎌田）に浄水場を造り、多摩川の伏流水を取水してポンプで中継点の駒沢給水場まで押しあげた後、重力で渋谷へ自然流下させる計画が立てられました。この建物は、駒沢給水場と渋谷町の標高差に大きな水圧をかけるために高い給水塔として建造されました。大正10年（1921年）に大規模な水道工事が始まり、大正12年（1923年）3月第2号塔完成、同年9月1日に関東大震災をうけたが問題なく同年11月第1号塔完成、翌年大正13年（1924



大正12年（1923年）9月1日 2号塔上棟



大正13年（1924年）竣工時



多摩川・砧から渋谷への水の道

年）3月に全工事が完了しました。

「駒沢給水塔風景資産保存会」のこの始まりは、給水塔に隣接してお住まいの久野富雄さんが、双子の給水塔のそびえる不思議な風景に興味を持たれ、この風景をずっと残しておきたいという想いをもち、同じ想いをもつご近所にお住まいの黒田端さんと意気投合したことにあります。

平成11年（1999年）には、給水所機能停止になり、当時新聞などで、「取り壊されるかも・・・」といった風評から、給水塔を保存する考察をしているときに、平成14年（2002年）9月、世田谷区で第一回地域風景資産募集があり、応募を検討することになりました。応募して認定されるためには

- ① 風景としての資産価値があること
- ② 地域の共感・共有があること
- ③ 風景づくりにつながるアイデアがあること
- ④ コミュニティづくりにつながる可能性があること

の4つの条件が必要です。この条件を一挙に解決するには保存会の結成が最良と考えた久野、黒田両氏は駒沢給水所近隣に古くから住んでいて、関心のある人々に呼びかけて集まった有志十数名で「駒沢給水塔風景資産保存会」を発足させました。

発足当時はまちづくりファンドの助成を受けて活動をしていましたが、平成19年（2007年）3月に満期を迎えました。自立する為には会費を徴収する必要が生まれ、現在は年会費1,200円、会員数約370名にて積極的



会誌・ポストカード・小学生用の冊子



世田谷教育センターで写真展

なアウトリーチ活動（イベント・各種交流会への参加、DVD 上映、給水塔巡回写真展開催、ポストカード・冊子の作成と販売、メディアによる取材対応など）を行っています。

- * 毎年5月に定期総会を開催、活動の報告や計画、予算を決めるほか、総会終了後会員との懇談会を開き、意見交換をして将来の活動に活かすようにしています。
- * 15名の幹事で毎月定例幹事会を開き、協議して会の運営に当たっています。
- * 土木・建築・都市環境系の専門家9名を顧問とし、指導と協力を仰いでいます。
- * 幹事以外にアクティブ会員として、色々なイベントなどの時にだけ手伝って頂く10数人の方がいます。

2. 地域との関わり、地域への広がり

「コマQ」の愛称で親しまれる駒沢給水塔風景資産保存会は、給水塔の保存活動を通じて近隣住民や関係諸団体とのコミュニティを形成しています。

世田谷区が呼びかけている地域風景資産とは、区の風景づくり条例に基づくもので、世田谷の魅力的な風景を大切にす為、地域で大切にしたい身近な風景を資産

として、守り育てていくことを目的として選定するものです。5年に一回の選定で、一般区民、有識者、区職員の10人の選定人で7人以上の賛成で決まります。

地域風景資産の募集開始から1年半かけて現地見学、色々な調査、公開説明をして広く区民に知ってもらい、興味関心を高めてもらうこととなっています。

地域風景資産は、第一回選定36箇所、第二回選定30箇所、今年3月1日に第三回地域風景資産のお披露目で20箇所が加わり86箇所になりました。第一回選定になった駒沢給水塔は10年が経過して色々と活動してきましたが、顕彰されて終わるのでなく共感し風景づくり活動を進める仲間探しを続けるためにまだまだPRが足りず、楽しいアイデアを検討しています。

会の活動としては、まず、給水塔に親んでもらおうと、保存会は一般向けの見学会の実施を管理する東京都水道局に働きかけた結果、平成14年（2002年）12月に第1回構内見学会（37名参加）を開催しました。翌年からは、毎年10月1日「都民の日」の見学会開催が定例化しました。最近ではTV、新聞、地元雑誌等に取り上げられ、この3、4年前から見学参加200人の定員が直ぐに埋まり盛況です。また、特別に近隣3校の小学生対象の構内見学や写生会等、年一回会員対象の水道スタディツアーとして他の給水場見学の開催、地元商店街のイベントやフリーマーケットに参加しています。近代化遺産



10月1日・見学会受付



10月1日・構内見学説明

のPR活動としては当会で制作したDVDを近隣町会を始め各所で上映、写真展の開催、会誌「そうとう」年一回の発行、会報「双塔」年四回の発行、ホームページの充実に努力中です。



地域のイベント



小学生・構内の1号塔と2号塔繋ぐトラス橋見学



小学生・地区センターの常設展示コーナーで説明

3. 今後の展望・提言・問題提起

約10年間の活動で土木建築系の専門家たちの協力を得て、保存会は遺産の検証研究を進めた成果を基に、東京水道近代化の生き証人とも言うべきこの貴重な歴史的遺産を所有者管理者と都民国民の共有のものとして、保



給水所正門入り口に設置された名盤



選奨土木遺産の第一ポンプ所

存会は保存活用をくりかえし都水道局へ要望してきました。都水道局側も理解を深め、東日本大災害後に給水塔は平成24年(2012年)の耐震検査により耐震性が確認されました。これにより時期は未定ですが再び給水拠点として利用される予定になりました。保存会は、これからも東京都水道局とできるだけ話し合いの機会をもち、近代化遺産の更新修復や、保存活用の整備の促進に努力していきます。

また、平成24年(2012年)11月には、駒沢給水所の施設である第一号、第二号給水塔(大正12年竣工)と第一ポンプ所(昭和8年(1933年)竣工)が(社)土木学会の水道関係のすぐれた土木遺産として「選奨土木遺産」に認定されました。評価された理由は、①独創的な土木構造の意匠を持つ、②街のシンボルとして地域住民に愛されている。特に②は当会が十年余り保存のための周知活動を行い、住民に存在が周知できたことが、認定の一助になったと考えられます。これからも給水所構内の、見学会、写生・撮影会等の回数を増やして多く

の参加者に来てもらいたいと思っています。

給水塔の頭頂部に薄紫色の12個の装飾灯（直径53cmの球形）が設置されています。竣工当時は色ガラス製でしたが、大半が破損していましたのですべてポリカーボネート製の、同じ様な色に着色した物に取り替えられました。トラス橋の4個を加えて全部で28個の装飾球が点灯すると、日没から夜半まで濃紺の空を彩ります。大正口マンの色なのだろうか、赤い玉で飾られた給水塔のシルエットが、素晴らしい光景を見せてくれます。年に3回、*4月の桜新町駅前商店街のさくら祭り、*6月1日～7日の水道週間、*10月1日都民の日の夜に点灯します。点灯の回数を増やして、市民に大正、昭和初期の遊び心を楽しんでもらいたいと思っています。



28個の点灯された装飾灯



第一ポンプ所の室内

平成元年（1989年）に運転停止になった第一ポンプ所が選奨土木遺産に認定された事で、旨く修復して効果的利用を検討しています。住宅街の真ん中にある約17,000㎡の敷地には、給水塔2基と第一ポンプ所、配水池、記念碑等が近代土木遺産としてあります。これらの歴史的重要な建造物をうまく改修し、最先端の設備同様に、災害時の市民の安全な飲料水として提供できるいろいろな工夫が必要です。街のシンボルとして愛されてき

た駒沢給水塔を、風景資産として大切に保存活用するには、所有者水道局と行政（都市デザイン課）、保存会、が三者共働することが必要です。駒沢給水塔風景資産保存会が市民に近代化遺産の建造物が安全に給水所としてこれからも使い続ける事が出来る事に関心を持っていただくよう、PR活動を続けていくつもりです。



記念碑塔と配水池

コマQの次の活動は、駒沢給水所という『点』の活動から、多摩川河畔に始まり、駒沢給水所経由で渋谷に至るまでを渋谷町水道近代化遺産とする『線』の活動へとつなげていくことです。

世田谷区は現在人口86万人を超える街で、高層、中層マンション、戸建住宅の新築が急増の中で、空き家（木造、非木造）も18,000棟ほどあります。この現象が世田谷らしさの風景を悪く変えています。大正、昭和の近代化建造物が壊され、高木も安易に伐採して、歯止めが利かない状況です。この状況を変えるには、如何したら良いか大きい課題です。次の世代を担う10代～20代が、駒沢給水塔のように、近代化遺産を街のシンボルとして、愛着を持ってもらえるようにしたいと考えています。そのため保存会では、近代化遺産の活用方法のワークショップなどを行い、他の地域活動団体と情報を交換しながら、行政の協力も経て活動を続けていきたいと考えています。

Profile 澤 一郎（さわ いちろう）

出身地：東京／日本大学工学部建築学科：昭和42年卒業／
JIA世田谷地域会員 幹事／NPOせたがや街並保存再生の会 副理事／駒沢給水塔風景資産保存会 代表幹事